

# 胆振の教育を推進するために

## ～日常の授業改善を目指して～

本資料は、各学校における日常の授業改善のために、管内の課題である「身に付けたい力を明確にした『めあて』の設定」、「学習内容の確実な定着を図る『振り返り』の位置付け」、「主体的に学び考えを深める『言語活動の質の向上』」のポイントと実践例をまとめた指導資料です。

管内の先生方の日常の授業づくりの際に、本資料を参考にいただければと思います。なお、本資料は、胆振教育局 Web ページにも掲載しております。

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ibk/>

### 身に付けたい力を明確にした「めあて」の設定

#### POINT!!

- 全ての教科の授業の導入において、子どもに分かりやすい表現で、学習課題（めあて）を提示します。
- 学習課題（めあて）は、学習指導要領の指導事項、評価規準や評価の観点を踏まえて設定します。
- 単元（題材）のはじめに、「この時間に何が分かればよいのか」や「何ができるようになればよいのか」、「どのような手順や方法で学習するのか」などの見通しをもたせます。

### 学習内容の確実な定着を図る「振り返り」の位置付け

#### POINT!!

- 全ての教科において、まとめを示した後、授業の終末に学習したことを振り返る時間を必ず設定します。
- 授業のまとめの場面では、学習課題と正対したまとめを行います。
- 子ども自身が自分の言葉で学習内容を振り返ってまとめたり、学習内容の定着状況を確認する問題に取り組んだりする活動を位置付けます。

### 主体的に学び考えを深める「言語活動の質の向上」

#### POINT!!

- 「思考力・判断力・表現力等」の育成と言語活動の関連を明確にします。
- 国語科で培った言語能力を基本に、全ての教科等において、子どもが、相手や目的、意図を明確にして、話したり書いたりする言語活動を位置付けます。
- 各教科等の目標の実現のための手立てとして、各教科等の特質を踏まえつつ、適切な言語活動を位置付けます。

# 身に付けたい力を明確にした「めあて」の設定

- 単元（題材）や授業のはじめに、子どもに分かりやすい表現で学習課題（めあて）を提示し、「この単元（題材）やこの時間に何が分かればよいのか」や「何ができるようになるか」、「どのような手順や方法で学習するのか」などの見通しをもたせる必要があります。

## 【めあての設定例（小学校国語科）】

「小学校第3学年における文学的な文章の指導」

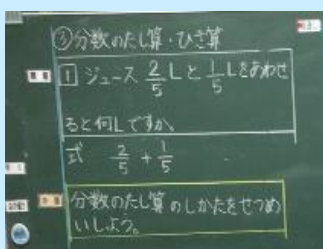
小学校学習指導要領解説国語編「読むこと」領域の文学的な文章の解釈に関する指導事項を踏まえ、めあてを『『おすすめの本発表会』』で、2年生に好きな登場人物を紹介しよう」とすると、「相手は2年生、場面はお薦めの本発表会で、方法は好きな登場人物を紹介する」というように「相手」「場面」「方法」を明確にすることができます。

## 【めあての設定例（中学校数学科）】

「中学校第2学年における『平行四辺形』の指導」

国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校数学）」第2学年「B 図形」の評価規準に盛り込むべき事項を踏まえ、めあてを「平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件を利用し、四角形が平行四辺形になることを証明しよう」とすると、どのように考えたら解決できそうか、どのような既習事項が使えるか見通しを明確にもつことができます。

「めあて」、「見通し」、「まとめ」等のカードを各教室に置き、授業のはじめに評価の観点を基にした課題（めあて）を示すとともに、課題解決の方法を全体で確認するなどして、見通しをもたせています。



【苫小牧市立拓進小学校】

「身に付けさせたい力」を明確にするためには、国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を活用することが有効です。



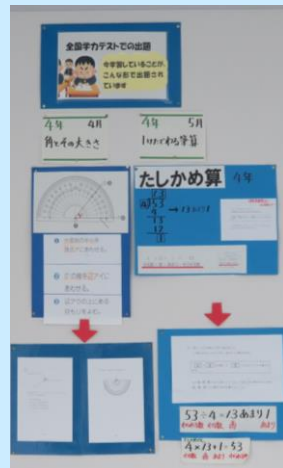
# 学習内容の確実な定着を図る「振り返り」の位置付け

- 「振り返り」では、単元（題材）や単位時間の「まとめ」を示した後、授業の終末に学習したことを振り返る時間を確実に設定し、「学習したこと」や「何ができるようになったのか」を子ども自身が自分の言葉で振り返ったり、学習内容の定着状況を確認する問題に取り組んだりする必要があります。

## 【振り返りの例】

- ・「何を学んだか」、「何ができるようになったのか」だけでなく、「新たな課題」や「学んだことをどのように使うか」等について子どもに確認したり、説明させたりして、自己評価をさせます。
- ・算数の「数学的な考え方」の授業では、数直線を基に立式の仕方を説明する活動を行うなど、評価の観点に即した練習問題を位置付けるとともに、確認問題の取組状況から目標の達成状況を把握し、授業改善に生かします。
- ・本時で学んだことを活用する宿題を出したり、次時の学習活動を確認したりして、予習・復習を促すなどして家庭学習習慣の確立につなげます。
- ・授業で学んだことと全国学力・学習状況調査問題やチャレンジテスト問題との関連を掲示し、学んだことをどのように生かすのかを紹介します。

授業で学んだことと全国学力・学習状況調査問題との関連を掲示し、学んだことをどのように生かすのかを紹介するなどして「振り返り」ができるよう工夫しています。



【室蘭市立蘭北小学校】

# 主体的に学び考えを深める「言語活動の質の向上」

- 「思考力・判断力・表現力等」の育成と言語活動の関連を明確にし、国語科で培った能力を基本に各教科等の特質に応じた言語活動を充実するとともに、子どもが主体的に学び考えを深める「言語活動の質の向上」を目指す必要があります。

## 【思考力・判断力・表現力等】を育む学習活動例】

- 次のような学習活動を各教科等の指導計画に位置付け、組織的に授業改善を図ることが大切です。
  - ① 体験から感じ取ったことを表現する
  - ② 事実を正確に理解し伝達する
  - ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
  - ④ 情報を分析・解釈し、論述する
  - ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
  - ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

## 【学習評価と言語活動】

言語活動を通して育成する「思考力・判断力・表現力等」については、各教科の対応する観点（例えば、算数では「数学的な考え方」）で適切に評価する必要があります。

## 【言語活動の充実】

- 言語は知的活動の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされています。各教科等において言語活動を充実する際には、次のような言語の果たす役割を踏まえた指導を行う必要があります。
  - ① 事実等を正確に理解すること
  - ② 他者に的確に分かりやすく伝えること
  - ③ 事実等を解釈し、説明することにより自分の考えを深めること
  - ④ 考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること

## 【ペアやグループによる交流】

発達の段階に応じ、授業の途中で、発問をして考えさせたり、それぞれの意見や感想を出させたりする場面に取り入れます。

## 【教科等の特性を踏まえた指導の充実】

- 各教科等における言語活動は、国語科で培った能力（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）や言語活動の経験を生かしたり、国語科の言語活動例を参考にしたりする必要があります。

## 【言語活動の位置付け】

- 各教科等の目標と指導事項との関連を踏まえて、次のような言語活動を適切に位置付けることにより、目標の実現のための手立てとして言語活動の充実を図ることが大切です。
  - ・「考えを深める場面」で、一斉授業だけでなく、ペアやグループで付箋やホワイトボードを使って話し合う
  - ・教師の説明だけでなく、「発表の場面」で子どもが説明したり、製作物を使って発表したりする
  - ・「書く場面」で、板書をノートに写すだけでなく、分かったことや考えたことをレポートや新聞にまとめる



算数の授業では、ICTを活用し、自分の考えたことを説明する学習活動を行い、筋道を立てて考え表現する能力を育てています。

【室蘭市立水元小学校】



国語の授業では、場面の移り変わりに気を付けて読み、想像した情景などをグループで話し合うことにより、感じ方の違いに気が付き、考えを深めることができるよう工夫しています。

【苫小牧市立豊川小学校】



# コラム「主体的・対話的で深い学び」 (いわゆるアクティブ・ラーニング)

2030年（平成42年）を見据え、中教審から、答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」が、昨年12月に公表されました。

「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ることで、学校教育における質の高い学びを実現し、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにすることをねらいとしています。

## 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

- 本答申においては、「主体的・対話的で深い学び」の具体的な内容について、次のように整理しています。
- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか

## このような授業場面はありませんか？

- ◆ 学習課題（めあて）を板書し、子ども全員で声を出して読むことで、本時の学習課題（めあて）について、子ども全員が理解していると思って授業を進めている。
- ◆ 話し合い活動に入る前に、何を話し合うのか（何のために話し合うのか）、目的を押さえずに話し合い活動をさせている。
- ◆ 子どもたちに「分かっている」のかどうかをしっかりと確認せずに授業を進めている。
- ◆ 教師が一方向的に教えて（いわゆる講義型の）授業を進めている。

## 「主体的・対話的で深い学び」へ転換しましょう!!

- ◎ 学習課題（めあて）を板書した後、本時の「学習のゴール」は何かを子ども全員で確認することで、学習に対する見通しをもたせ、目的意識をもって取り組ませる。
- ◎ 話し合い活動を行う際は、話し合いの「目的」、「方法」、「ゴール」、「時間の目安」等について、明確な指示をすることで、子ども全員に目的意識や相手意識をもって話し合わせる。
- ◎ 授業の節目において、子ども全員が理解しているのかを確認したり、子どもの表情やノートの記述から、学習到達状況を見取ったりするなど、指導と評価の一体化を意識して指導する。
- ◎ 教師の説明のみに終始せず、子ども同士、子どもと先生の対話を重視した授業を行う。

## 平成29年度 胆振教育推進資料 胆振の教育を推進するために ～日常の授業改善を目指して～

平成29年 3月発行  
北海道教育庁胆振教育局  
胆振管内教育委員会連絡協議会

